



絆プロジェクトⅡ

～ 日常実践の充実を目指した教育活動へのチャレンジ ～

学習環境

教育課程

体力向上

外国語

キャリア

平成 29 年 9 月 1 日発行
No.9 文責 小林

教育課程

外国語の本格導入に向けてⅠ

～ 外国語活動は、どう変わるのか? ～

	現 学習指導要領	新 学習指導要領
目標	<p>外国語を通じて言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションをを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、<u>コミュニケーション能力の素地を養う。</u></p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による<u>聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと</u>の言語活動を通して、<u>コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 実際のコミュニケーション（言語活動）を活用した基礎的な技能を身に付ける。 • 目的や場面に応じて、基本的な表現を推測して読んだり、語順を意識して書いたりして自分の考えを伝え合う力を養う。 • 文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
時数	5, 6年生が外国語活動として35時間	3, 4年生で外国語活動として35時間 5, 6年生で外国語として70時間
評価	<p>「言語や文化に関する気付き」「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語への慣れ親しみ」の3観点に即した文章記述。</p>	<p>「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で、3, 4年生は、今まで通りの文章記述。5, 6年生は、数値による評定も?</p>

*外国語に慣れ親しむ活動から、具体的に聞く・話す・読む・書くの言語活動を用いたコミュニケーション能力の育成が求められるようになっていきます。段階的には、3, 4年生で聞くこと・話すことを中心に、5, 6年生では読むこと・書くことを加えた教科学習に移行していきます。

*文科省より移行期は、3, 4年生は15時間、5, 6年生は50時間の実施が求められており、そのうちの15時間は、総合的な学習の時間を活用することが認められています。しかし、帯広市では総合的な学習の時間は、現行通り行い、単純に15時間増での運用となります。また、30年度に15時間、31年度には35時間全ての実施を目指しています。

*移行期は、全学年文章記述の評価となり、3, 4年生は指導要録の総合所見に学習状況の顕著な事項を記入。5, 6年生は、現行通り外国語活動の欄に記述し、数値による評定は行いません。しかし、本格実施の32年度からは、高学年に限り数値による評定となる可能性もあります。よって、しっかりした評価基準に基づいたパフォーマンス評価が必要となってきます。